

15 持ち出し品なあに？クイズ

非常持ち出し品を並べ、1分間で覚えさせ、その後隠して答えてもらう暗記クイズです。



災害時に必要なものを知り、事前に備えておく必要性和その使い方を学習します。



時間軸

実施内容

対象人数★5～40人

1 事前準備

⇒資料15-3参照

- 1 持ち出し品を12品目程度用意します。
- 2 持ち出し品を並べて置き、ひらがなで品名を書いた名称プレート（資料15-3）を品物の前に置きます。
- 3 並べ終わったら、シートや布などで持ち出し品全体を覆い隠します。

2 導入（5分）

実施するに当たり、班分けを行います。班対抗で実施すると盛り上がります。

3 ゲームの実施（10分）

⇒資料15-2

- 1 1分間で並べられた持ち出し品を見せて、覚えさせます。
- 2 持ち出し品を布などでもう一度隠して、覚えたものを一つひとつ答えさせます。この間は他の班から見えない・聞こえないように工夫すると、ゲーム性は高まります。
- 3 答えを言うにも制限時間を設定するといいいでしょう。答えをチェックする際には、資料15-2を活用するといいいでしょう。
- 4 以後、各班順番にゲームを実施します。正解の数を班ごとと黒板に記入すれば盛り上がります。

4 まとめ（5分）

⇒資料15-1、15-2

- 1 すべての班が終了したら、再び覆いを取って物品を見てもらいます。資料15-2を配付し、それをもとに物品の必要性を説明します。
- 2 これ以外にも、必要な物品がありますので、資料15-1を活用して、その他の物品についても学習すると理解が深まります。
- 3 家に非常持ち出し品（避難リュック）が準備されているかどうかを確認させます。



持ち出し品は各家庭で準備しておきましょう

指導ポイント

- 1 非常持ち出し品を選定するポイントとして「かさばらないこと」「保存可能なもの」などのテーマを教えることが重要です。
- 2 品目を暗記させるだけでなく、使用方法を解説することによって、災害時の困難な状況とその解決方法を知ることが重要です。

自主防災組織の関わり方

災害を経験した方がいたら、「こんなものがこんなに役に立った」という話をお願いします。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 資料「何があるかな？お家の人といっしょにチェックしてみましょう」	人数分	資料15-1（配付用）
<input type="checkbox"/> 資料「避難リュック（非常用持ち出し品）の説明」	人数分	資料15-2（配付用）
<input type="checkbox"/> 資料「非常用持ち出し品名札」	人数分	資料15-3（配付用）
【例】懐中電灯、携帯ラジオ、非常食、貴重品、ヘルメット、衣類、マッチ・ろうそく、水、救急セット、ウェットティッシュ、筆記用具、軍手		
<input type="checkbox"/> 持ち出し品を隠す布やシート	1枚	
<input type="checkbox"/> ストップウォッチ	1個	

家庭への持ち帰り

非常持ち出し品チェック表（資料15-1）を持ち帰り、持ち出し品を備えていない家庭は、チェック表を参考に、玄関付近などすぐに持ち出せる場所に備えておくよう指導し、持ち出し品がある家庭でも品目の違いを比べて考えてもらうよう指導してください。

このメニューに関する+αの知識

このメニューで紹介している12品目は、この品揃えがベストというわけではありません。各家庭で自分たちにとってどんな品目が必要かを話し合い、独自の持ち出し品を決め、準備することが大切です。また、災害時に食料などの物資が届くまで、一般的に3日間かかると言われています。水9ℓ（一人当たり：3ℓ×3日分）、非常食などは必ず備蓄しておき、少なくとも3日間は家族全員が自力で生活できるよう、必要なものを備蓄しておくことも重要です。

ひと工夫

中学生以上には、クイズ形式でなく、どのようなものが必要か発表させるとよいでしょう。

注意事項

可能であれば、子どもたちに実際に持ち出し品を使用させると知識が技として定着します。